



中病だより

自衛隊中央病院
総務部総務課発行
令和元年度
第2号

年頭の辞



自衛隊中央病院長
防衛技官 上部 泰秀

新年明けましておめでどうございませう。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、平素から当院に対し、格別のご理解・ご支援を賜り、全勤務員を代表して心より御礼申し上げます。

昨年は「令和」の時代が幕を開け、大きな節目の年となりました。当院は、防衛省・自衛隊の最終後送病院として、隊員・家族の方々の健康管理や診療はもとより、災害派遣活動や国際平和協力活動等への要員派遣に加え、事態対処における衛生支援の態勢を整備するとともに、保険医療機関としても、年間六千台を超える救急車を受け入れる等、救急医療を始めとする地域医療に貢献して参りました。また、大規模災

害の発生や新興・再興感染症の流行等を念頭に、地域医療機関や行政機関等との連携強化にも取り組みました。そして昨年十月の台風被害の際は、浸水した病院から十九名の患者を受け入れ、地域の期待に応えることが出来ました。さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、残念ながら一段と厳しさを増しつつあります。首都直下や南海トラフ地震、台風豪雨等の大規模自然災害の発生や新型インフルエンザの流行も強く懸念されています。加えて本年は東京オリンピックが開催されます。このため、我々自衛隊中央病院は、隊員や家族の方々への日々の健康管理や診療を更に充実させるとともに、態勢整備の推進や各種教育訓練の徹底により不測事態対処能力の向上に力を尽くして参ります。そして地域の方々の安心のため、救急医療を始めとする質の高い医療の提供のみならず、大規模災害発生時の医療支援や新興・再興感染症流行時の患者受入の態勢も整備して参ります。

最後に、本年も当院に対するご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様にとって幸多き年となりますことを心からお祈りし、新年のご挨拶といたします。

令和二年一月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官

上部 泰秀



副院長 (陸)
陸将 鈴木 智史

新年あけましておめでどうございませう。皆様におかれましては、穏やかです。素晴らしいお正月を迎えられていることと思います。昨年は、自衛隊中央病院に対し多大なご支援、ご協力を賜りありがとうございました。

昨年は、職員一丸となって救急診療態勢を更に充実させ、六千台超の救急車を受け入れるなど、地域医療の重要な一翼を担うと同時に、診療実績を増加させ、医療従事者の能力向上と教育の充実を図ることができました。また、「台風19号」災害派遣活動を円滑に実施するとともに、部内外の多機関と連携した災害対処訓練や東京都等と連携した感染症対処訓練等を実施し、指揮幕僚能力及び事態対処能力の向上を図ることができました。

今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえ、テロ・特殊災害、感染症対応も含めた事態対処能力をいつ何時でも発揮できるようにして、最終後送病院たる自衛隊中央病院の役割をしっかりと果たしていきたいと思っております。

本年も引き続き、上部病院長を核心として、国民の期待に応え信頼される病院を創造するとともに、教育訓練等を通じて更なる自衛隊衛生の能力向上に寄与するために、微力ながら努力していく所存ですので、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今年1年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長 (海)
海将 佐藤 道哉

新年明けましておめでどうございませう。皆様におかれましては、穏やかです。新しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は、自衛隊中央病院に多大なご支援、ご協力、そして、ご指導を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、極めて速いスピードで変化する安全保障環境のもと、陸・海・空という従来の区分に依拠した発想から完全に脱却し、宇宙・サイバー・電磁波といった新しい領域も含めて、全ての領域を横断的に連携させた新たな防衛力の構築に向けて、従来とは抜本的に異なる速度で変革していくことが求められています。その中で、各種事態に対応する隊員の生命を守るための第一線救護態勢の構築はもちろんだら、災害や国際平和協力活動における衛生支援や能力構築支援などにも的確に備えていくために、衛生機能の充実・強化は、省全体の施策としてスピード感をもって進められています。

自衛隊の最終後送病院である自衛隊中央病院としても、それらの施策に一層積極的に関与するとともに、救急救命治療における能力向上等、衛生支援の基盤となる教育態勢の充実強化は極めて重要な任務と考えています。一方で、災害への現実的な対応や海外行動部隊への医官の派遣等、衛生資源の供給元としての役割を果たすべき機会も増加が見込まれ、病院の外でも様々な形で良好な安全保障環境の構築に関与していくためにはならない状況です。それらを念頭に、教育担当副院長としての職務に精励し、病院長の要望事項である「非常時に安心を、地域に貢献を、職員に誇りを、患者に満足、健康に万全を」の実現に貢献していきたいと思っております。

本年も、自衛隊中央病院に対する引き続きのご指導をお願いするとともに、皆様にとりまして、今年もよい年になるよう祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



総務部長
防衛技官 鈴木 英明

新年あけましておめでとうござい
す。皆様におかれましては、穏やかな
新年をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。
今年、世界からたくさんのお客様
をお迎えしてのオリンピック、パリリ
ンピックが開催されると共に、自衛隊
中央病院においては、創立六十五周年
の記念すべき日を迎えることとなりま
した。

昭和三十一年に自衛隊中央病院が開
設されて以来、数々の諸先輩の努力と
今勤務されている職員の活躍により、
自衛隊医療の中核としての地位を確立
して参りました。近年においては、一
般診療の開始、救急患者等の受け入れ
国際緊急援助隊等への参画、大量傷者
受入訓練、感染症患者受入訓練などを
通じ実効性のある医療体制の構築が進
みつつある一方、社会の要請である働
き方改革を始めとする様々な改革活動
に対しても、柔軟かつ効率的に推進す
ることが出来ました。

今年の抱負としては、上部病院長の
指導の下、自衛隊の任務や社会の変化
に適切に対応しつつ、「非常時に安心
を、地域に貢献を、職員に誇りを、患
者に満足を、健康に万全を」の指導方
針を的確に進めていくと共に、職員一
人ひとりが伸び伸びと働ける環境を整
備していきたいと考えております。
年始に当たり、皆様の益々のご健勝
とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とい
たします。



最前任上級曹長
准陸尉 犬飼 耕

謹んで、新春のお慶びを申し上げま
す。旧年中は皆様に大変お世話になり
誠にありがとうございました。月日や
時間が過ぎるのは早いもので、自衛隊
中央病院最先任上級曹長として、二回
目の新年を迎えることが出来ました。
その間、元号が平成から令和に変わ
る歴史の変わり目とも言える時期に、
現職として勤務できた僥倖に感謝する
ところであります。さて、令和といえ
ば、これまでの中国古典からの出典で
はなく、和書である万葉集からの「初
春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅
は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫
らす。」との文言からの引用でした。
令和には、「人々が美しく心を寄せ合
う中で文化が生まれ育つ」という意味
が込められているそうです。私も、め
まぐるしく文明の進化が加速する現代
において、心を寄せ合うことを基調と
することを忘れず、時代に即した前進
を感じることができるよう努めさせ
ていただきたいと思います。

本年も、病院の上級曹長業務系統を
更に機能向上させ活動の基盤とし、衛
生科隊員の意識改革及び活性化に信念
を持って取り組むとともに、陸海空自衛
隊衛生科と在日米軍等との下士官交流
を推進し、相互理解、連携の深化に邁
進していく所存であります。結びに、
皆様とご家族にとつて幸多き心安らぐ
年となりますよう祈念し、新年の挨拶
とさせていただきます。

海外高官等来院

モンゴル国防大臣、国連カレ事務局長、米統参議長夫人、

国連カレ事務局長訪問受け

令和元年十月十七日(木)、来日中
のアトウレ・カレ国連活動支援局長
の訪問を受けました。
カレ局長は、ブリーフィング会場に
おいて概要説明を受けた後、大型ヘリ
離発着可能な屋上ヘリポート、一類感
染症患者受入可能な感染症病棟及び救
急外来を見学され、自衛隊中央病院の
活動状況について理解を深めていた
きました。

米オリ・パラ委員会訪問受け

米オリ・パラ委員会

十一月二十五日(月)、アメリカ
オリンピック・パラリンピック委員
会医療関係者の訪問を受けました。
アメリカ選手団は世田谷区での
キャンプを予定しており、期間中の
医療連携において確認がありました。

モンゴル国防大臣視察受け

十二月二日(月)、ニヤマー・
エンフボルドモンゴル国防大臣の視
察を受けました。
自衛隊中央病院は、モンゴル軍の
医療人材育成に関わる能力構築支援
事業を実施しており、概要説明や施
設の視察を通じ、自衛隊中央病院の
取り組みや活動状況についてご理解
いただきました。

米統参議長夫人研修受け

十一月十二日(火)、ミリー米統合
参謀本部議長夫人が、山崎統合幕僚長
夫人らとともに、自衛隊中央病院を研
修されました。救急看護師として長年
の勤務経験を持つミリー夫人は、概要
説明を受けた後、ICUや救急室等、
病院内の各施設を研修されました。



→ 感染症病棟で説明を受け
るカレ国連活動支援局長



→ 医官から救急室の説明
を受けるミリー夫人



→ 米オリ・パラ委員会
スタッフと連携を確認



→ 救急室を視察される
ニヤマーモンゴル国防大臣

台風19号に伴う 災害派遣活動

自衛隊中央病院は、令和元年十月十二日(土)に発災した、「令和元年台風第19号」への災害派遣活動を実施しました。

令和元年十月十三日(日)、自衛隊中央病院に対し、浸水した世田谷記念病院から入院患者の一部受入れ依頼があり、東京都から要請を受けた第一師団の衛生科部隊が救急車四台で十九名の患者を搬送しました。

病院は、速やかに指揮所を開設し、第二種勤務態勢に移行して患者受入れ態勢を整え、十九名の患者受入れを実施し、地域医療に貢献しました。

また、十月十八日(金)から十一月五日(火)までの間、東部方面総監部医務官室に、五名の増強幕僚を派遣しました。

派遣された増強幕僚は、東部方面総監部医務官室において医務官を補佐し、被災地に派遣された各衛生科支援部隊の活動を支援しました。

←1師団と連携し、搬送された患者の受入を実施



←指揮所活動にあたる増強幕僚



大規模地震時医療 活動訓練参加

自衛隊中央病院は令和元年九月七日(土)、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に、東京都からの要請により参加しました。

本訓練は内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省等の各省庁が参加し、災害派遣時の各種行動及び防災関係機関との連携要領を訓練し、その能力を向上させることを目的として行われました。想定は東京湾北部でM7.3の首都直下地震が発生、東京都からの要請で中央病院内に臨時の地域航空搬送拠点を開設運営するというものでした。

訓練において、日本DMAT十個チームが中央病院に参集し活動するとともに、東部方面衛生隊が救急車による患者搬送支援を実施しました。

この際、病院指揮所では、日本DMATの受入れ及び患者搬送に掛かる区西南部医療対策拠点(都立広尾病院)との全般調整並びに航空搬送拠点における日本DMATと連携した航空搬送予定患者の受入れ・収容航空機の調整を演練し、中央病院内航空搬送拠点運用の検証を行いました。訓練終了後には意見交換

会を実施し、中央病院が地域医療を担う病院機能のみならず、航空搬送拠点としての運用も期待されていることを認識できました。



↑ 病院指揮所における日本DMATチームの受入

米陸軍研修

自衛隊中央病院看護部(看護部長 一等陸佐 會田知子)は、日米看護の交流を目的に、看護部長以下六名で、令和元年十月三日(木)、キャンプ座間においてTCCC(Tactical Combat Casualty Care) 訓練を研修するとともにクリニックを視察しました。

本訓練は、在日米陸軍と陸上総隊が合同で実施した訓練であり、第一線における衛生科隊員等の行動について四日間の日程で実施されました。

研修は最終日であり、状況下における第一線看護要領等について研修し、TCCCに対する理解を深め識能向上を図ることができました。

また、クリニックの視察では、看護部長Nonaka中佐の案内で、看護部内での診療や健康管理等の各種業務の概要を把握するとともに、米陸軍における看護師の活動や、兵士の即応性の維持

看護部特集

←クリニック内の処置室視察



←クリニック看護部長 Nonaka中佐を囲んで



持向上に向けた具体的な取り組みなどを把握しました。今後も機会を捉え積極的に日米看護交流を推進していきます。

8西病棟感染症患者 受入訓練

自衛隊中央病院看護部は、令和元年十月二十六日(土)、看護部計画による八西病棟での一類感染症患者受入訓練を実施しました。本訓練の目的は、一類感染症患者受入指定要員の連続状況下における看護実践及び不測事態対処要領の習得にあります。

訓練は、一類感染症流行地から帰国後に疑似症を発症した患者を受入れたという想定で、患者の診療補助及び療養上の世話、看護実践及び勤務員に気分不良者が発生したときの対応について演練しました。

訓練に参加した看護官は、病棟配置図を活用し受入れ動作の確認を行った後、防護衣を着用した状態で約二時間にわたる連続状況下で患者の採血、注射薬の準備、食事の配膳等のほか、嘔吐物の処置等も行いました。

また、状況中に体調不良となった勤務員の脱衣及び交代要領についても演練し、一類感染症患者対処要領の練度を向上させました。



↑ 腕の模型を使用し、模擬患者から採血する看護官

令和元年度自衛隊中央病院記念行事開催

自衛隊中央病院は、令和元年十一月十六日（土）令和元年度自衛隊中央病院記念行事を開催いたしました。

当日は、第三十四代陸上幕僚長 岩田清文氏を特別講師としてお招きし、「期待を込めて」との演題で講演をいただきました。会場の駐屯地体育館には、中央病院職員、三桜会会員及び三宿駐屯地諸隊員を合わせ、五百名を超える聴講者が参加し、

多くの聴講者で埋まる
←駐屯地体育館



→職員に向けて講演する
岩田氏

「国際環境の変化に伴い、変化する我が国の防衛に関し、衛生科に期待すること」についてお話しいただきました。また、特別講演終了後には講堂において懇親会が開催されました。

懇親会には、岩田氏をはじめとされるご来賓のほか、三桜会会員、中央病院職員が多数参加しました。

懇親会では三宿仁愛太鼓の演奏や、病院管曲部による琴の演奏が行われ、和やかな懇親会に華を添えました。

参加した職員らは、OBの諸先輩方との思い出話に花を咲かせるとともに、近況について語り合流を深めました。

↑懐かしいお顔との再会



優秀隊員等紹介

○火災予防業務協力者に対する表彰

自衛隊中央病院自衛消防隊法令遵守と誠実な防火防災業務の遂行により、東京消防庁予防部長から表彰状を授与されました。

- 世田谷区医師会医学表彰
 - 診療科 黒木一陸佐
 - 第三九期研修医 山形二陸尉
 - 看護部 葛巻一陸尉

○学術優秀者の紹介

第十九回世田谷区医師会医学会において優秀発表として世田谷区医師会から表彰されました。

- 看護部 今井三陸尉
- 第一二六期幹部普通英語課程において情報学校第二教育部長から褒章状を授与されました。
- 看護部 横田三陸尉
- 第九九期幹部初級課程において衛生学校教育部長賞を受賞しました。

中病 SoYou だより

自衛隊中央病院曹友会（会長 健康管理課一曹 留盛 希）は、都立青島特別支援学校のボランティアに年五回参加しています。今回は、学校の卒業生が集まる『青年教室』のお手伝いで、クリスマスのアクティビティを支援しました。

学校の先生方はこのイベントを通じて卒業生の近況を把握しています。今回の活動中「ポーンズで母親にハンカチをプレゼントしたよ」「ほしかったアイティストのCDを自分の給料で買ったんだ」などの話を聞く機会がありました。

学校から社会へ飛び出す大事な時期を丁寧に見守り、うまく社会に移行できるための橋渡しの役目を特別支援学校が持っていることを学ぶことができました。ボランティア参加を通じて、いろいろな方と交流を深めながら、私たち自身が様々な社会的な課題を見つめるきっかけにもなっています。



↑卒業生とともにクリスマスケーキ作り

保健管理センター便り

新しい年を迎え、今年目標に健康管理に関する目標を立てられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

ところで最近、自衛隊関連の防災本や当院管理栄養士も関わった「自衛隊ダイエツトBOOK」など、自衛隊に関する様々な書籍を目にする機会が増えたように感じています。

今回は一般向けではなく、自衛隊員しか手に入れることが出来ない健康本 について紹介します。

【おすすめ其の①】

陸幕衛生部監修

「隊員の健康管理に資するハンドブック」

こちらは、28・1・14にまとめられた「中隊長等による健康管理に資するハンドブック」の続編とも言える隊員向けの健康管理ハンドブックです。多岐にわたる内容が掲載され、自衛隊の特性を加味した健康情報が満載です。隊員の皆さんには、一度手にして欲しい1冊です。

【おすすめ其の②】

体育学校監修

「体質改善プログラム」

体育学校が、減量のために必要な運動をプログラム化して紹介しています。ストレッチから体幹トレーニング、ウォーキング方法を含めた内容がわかりやすく掲載されています。実際に減量に取り組んだ方の事例などもあり、真の自衛隊ダイエツト本といえる1冊です。

「既に活用しています！」という部隊の声を私たちがも耳にすることが増えてきました。当院も今年度体育学校から講師をお招きして、教育を行い、大変好評でした。特に無酸素運動と有酸素運動の効率的な実施方法は必見です。まだ手にしていない方は、ぜひ一度ご覧ください！

【入手方法・閲覧方法】

「隊員の健康管理に資するハンドブック」は、陸自業務システム（業シス）の中央病院ページに掲載しています。他部隊へのお知らせの中からダウンロードが可能です。また「体質改善プログラム」は、業シスの体育学校のページからダウンロードが可能です。



中央病院ホームページ（業シス）画面 他部隊へのお知らせ 「隊員の健康管理に資するハンドブック」を掲載！ また不定期ですが、衛生ニュースも掲載していますので、ご利用下さい。

ご不明な点がございましたら、保健管理センター保健相談班（8616237）へお問合せください。

